

沖塚原東B遺跡出土の呪符木簡について

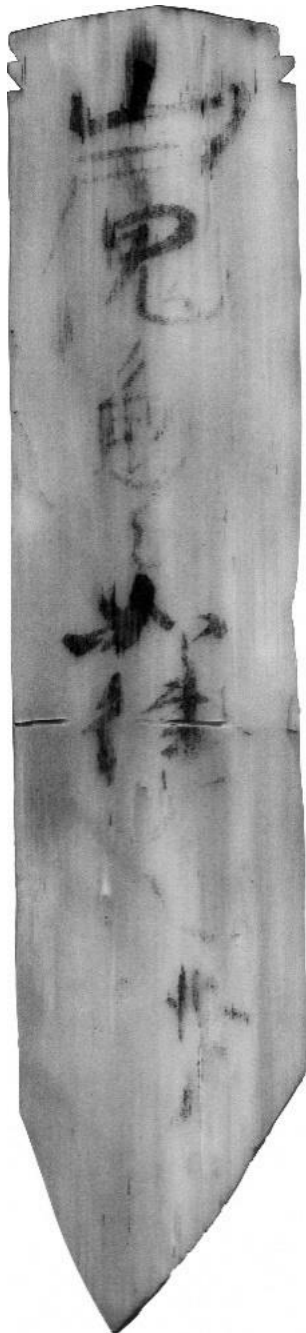
1. 遺跡概要

沖塚原東B遺跡は、射水平野の中央部、国道8号南側に立地する標高約1.2mの遺跡である。令和3年3月より発掘調査を実施し、鎌倉時代後期（13世紀後半～14世紀初頭）の集落遺跡である。掘立柱建物、井戸、道路址、溝（区画溝）、自然流路などが確認された。

2. 呪符木簡釈文 【赤外線写真】

■木簡 1

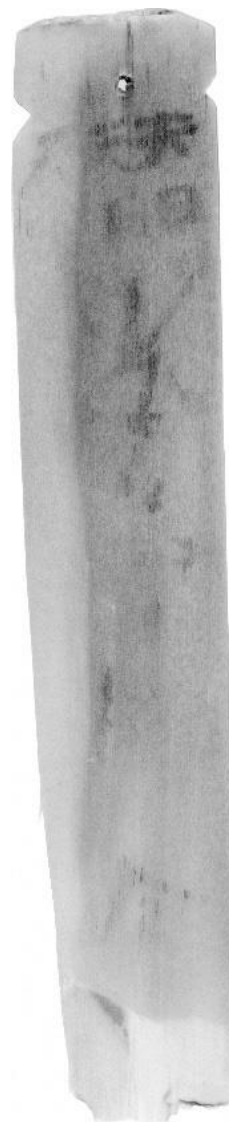
溝S D20 出土 (R3. 9. 24 出土)
247×55×4 mm



・
> 山 戸 鬼
急 々 如 律 □
□ □ (令カ)

■木簡 2

土坑S K05 出土 (R3. 9. 28 出土)
150×28×4 mm



・
> 天 天 天
天 日 日 日
(記号) □ □ 令
(急々如律カ)